

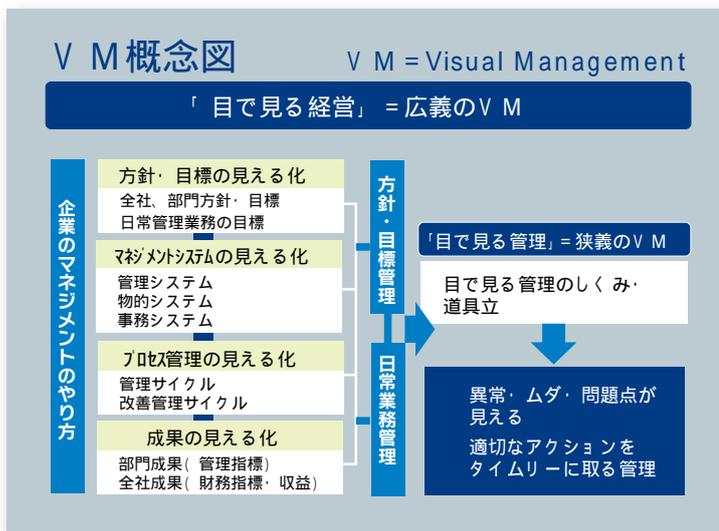
## VM / 見えるマネジメントシステム

Visual Management  
= 目で見る経営

### 1 . 概要

VM(目で見る経営 = 広義のVM)とは、見えるマネジメントシステムのことであり、VM活動とは、全社・全部門・全職場において、「方針・目標」、「マネジメントシステム」、「プロセス管理」、「成果」が見えるように、目で見る管理(狭義のVM)ができるシクミづくりを推進しながら、生産システムと管理・事務システムの維持管理活動と改善活動を展開して原価低減と収益増大を図り、終局的に企業の経営体質の革新・強化を実現する活動のことです。(図1参照)

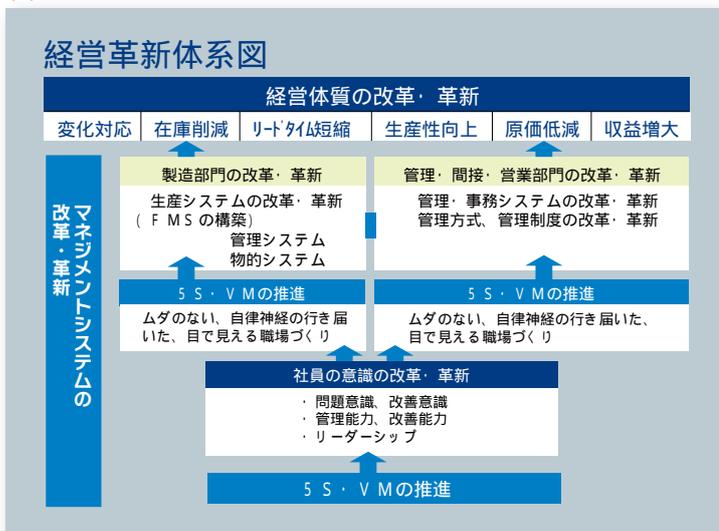
図1



### 2 . ねらい

激変する経営環境下で企業が生き残り、発展していくためには、製造部門のみならず、企業のすべての部門の改革・革新を図って、企業の総合的なマネジメント力を強化していくこと = 「経営革新」を実現することが大切です。経営革新とは“社員とりわけ経営管理職の意識の改革・革新を図りながら、全社・全部門のマネジメントシステムの改革・革新を図り、経営体質の改革・革新を実現すること”であり、VMを通じて、この経営革新を実現していきます。(図2参照)

図2



### 3 . VM活動の特色

- (1) 個別に展開されている経営管理・改善活動及び経営管理・改善手法を包含し、一元化して推進することができます
- (2) 部門で発生している経営の実態、ムダ、異常、問題点等の経営課題とそれが業績にどのように影響しているかが経営者や管理者が一目で見えるようになります
- (3) 予防的管理サイクルと改善のサイクルを常に回しながら応急処置対策と再発防止対策を迅速かつタイムリーに実施することができます
- (4) 全社、各部門の目で見えてわかる方針・目標管理体制を確立し、それを達成するための手段として、VM-FMS(見えるフレキシブル生産体制)、OVMS(オフィスビジュアルマネジメントシステム)を確立し、改善の実施状況、目標の達成状況を定量的にレベル評価しながら成果を実現することができます
- (5) 見やすさや美観を考慮した「見えるマネジメントシステム」を構築することにより、社内が明るく活性化するとともに、お客様など外部の方に感動を与え、好印象をもたらすことができます

## VM / 見えるマネジメントシステム

### 4 . 推進手順

VM活動の推進手順は以下のとおりです。

手順1 方針・目的・目標の明確化と組織化

手順2 VM診断による問題点と改善点の把握

手順3 VM活動の具体的推進

#### 生産システム

生産システムの基本的要件の改善  
管理システムの改善  
物的システムの改善

#### 管理・事務システム

5S活動の推進  
書類整理の実施  
ビジュアルファイリングシステムの確立  
VM(目で見える管理)の推進  
オフィスレイアウトの改善  
事務システム・手続きの改善と標準化  
責任権限の明確化

手順3において、生産システム、管理・事務システムの各項目について、各職場に目で見える管理(狭義のVM)の道具立を整備して、「目で見てわかる、ムダのない職場づくり」を推進していきます。

### 5 . スケジュール

実施期間は、企業規模、管理のレベル等により異なりますが、通常1年～3年ぐらいになります。1年目では、社員の意識改革・組織の活性化などの定性的成果が始め、2年目以降、会社の業績に直結する定量的成果が始め、3年目終了時には、進化・定着化し、経営革新が図れるとともに、見る人に感動を与える職場にすることができます。

#### VMの道具立の例: VMボード



詳しいパンフレットもございます。ぜひご請求ください。



問い合わせ先

(東京)〒102-0083 東京都千代田区麹町3-2-6 (垣見麹町ビル5階)  
TEL:03-5275-7751 FAX:03-5275-7755 e-mail: tokyos@chusanren.or.jp